

春闘共闘情報

編集 長野県労働組合連合会
長野市高田 276-8 TEL026-223-1683 Fax 227-1783 <http://kenrouren.assrv.com/>

2016年12月16日号

12月10日長野県春闘共闘・春闘学習交流集会、21組織138名参加。



トイゴの大学習室がいっぱいになりました(写真上)。政治の迷走や改憲、アベノミクスによる格差と貧困の拡大の中で、賃金の底上げなしには春闘は戦えないとの方針提起につづき、JMITU(齊京信一さん)からは賃金の地盤沈下が止まらない中での果敢な支部の取り組みの報告。医労連(大矢美奈子さん)からは15年ぶりの10円のベアがいかに大事か、これまでおとなしくしすぎたと決意表明。高教組(菅沼達勇さん)からは総務省の賃下げ圧力に負けないう県人事委員会を応援し、高校再編計画「学びの改革」では、反対にとどまらず真に子供の権利を守るものにする」と発言。建交労(藤森只一さん)からは全く報道されないが事故が日常茶飯事に起きているトラック業界の実態、労基法適用除外の過酷な長時間労働と低賃金の告発。単協労連(花岡修さん)はTPPの議論では日本の食料主権を誰が守るのかという視点がいつさいない議論への批判と、日本の農業を農協労組が守るという決意、自治労連(本間繁さん)からは職場の過半数が非正規という実態、民間給与の考え方に影響の公務賃金を公平な賃金のありかたの最後の砦として死守する決意、県教組(小林一久さん)からは教員の信じられないような超多忙化の現状の紹介など、春闘に向けての発言をいただきました。

エキタス原田さんから「正規と非正規の分断を越えて～ベアとしての最低賃金」と題し、若者の新しい運動(写真中)の話がありました。最低賃金1500円は、年収300万円であり、決して高い金額ではなく、根拠のある「自立して生活できる最低限の金額」であること、運動の「見せ方」やネットの使い方、労組への期待が話されました。

貧困バッシングがおこるくらい苦しい社会、「もし時給 1500 円になったら」の声をネットで募集したところ、「病院に行きたい」「離婚したい」が多く、「もっと人にやさしくなれる」という声が印象に残ったとのこと。

中野麻美弁護士（写真下）の「労働ダンピングを許さない～いま、丸子警報器事件から学ぶこと」として、日本特有の歴史的な女性差別をベースにして、ここまで広まった非正規問題を、賃金の安売り競争（ダンピング）として読み解き、アベ働き方改革を一刀両断しました。また、働くこと、生きること、人権とは何かを改めて考えさせられる内容でした。女性の睡眠時間が男性より短いのは日本だけ、子をもつ女性の低賃金は先進国で断トツ 1 位。男性も全人格的な労働を求められ、苦しめられている。自分を大事にしないと人を大事にできない。業績評価は必ず賃金を下げ、目標管理はかならず長時間労働化し、そして助けありのない職場はハラスメントが増え、長時間労働を加速する。日本の職場を再点検し、人間らしい働き方をとりもどすチャンスであると訴えました。

労組の力は人間関係、宝は信頼関係であり、その実践として、20 年前の JMITU 丸子警報器支部と、現在のシナノ印刷出版労組から、特別報告を頂きました。

裁判当時の執行委員長である塩之入さん、原告の臨時である滝沢さん、そして現委員長で当時は女性正社員として裁判を支えた吉池さんは「同じ仕事をしているのに、自分だけ賞与をもらっても後ろめたかった」とのこと。

現在の若者の活動として、今年争議を解決したシナノ労組の笠井委員長と越後谷書記長、依田さん、上原さん。自分たちで未来を変えた、力強い実践報告をいただきました。

おかしいことはおかしいという勇気をもらう報告でした（講演と特別報告の DVD あります）。



☆最低賃金毎月 15 日アクション☆ 長野駅で 15 名、松本駅で 10 名。

若者に手を振られました♪ 地域を励まします。（12 月 15 日 18 時）

